

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690101249
法人名	社会福祉法人 秀愛会
事業所名	せせらぎの郷
所在地	富山市小原屋202
自己評価作成日	令和4年10月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和4年12月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設は自然豊かで静かな環境下であり、入居者の方はゆったりとした雰囲気の中で過ごすことができます。職員も、入居者との「家庭的な雰囲気のある生活」を目指しながら、利用者一人ひとりの個性を受け入れ、それぞれのペースで安心して過ごすことができるよう支援しています。コロナ禍において外出などの制限がある中で、レクリエーションなどを充実させ、楽しく過ごせるように努力しています。また、感染症予防、転倒事故防止等のリスク管理、嘱託医との連携など入居者の健康管理に力を入れて、入居者が安全に暮らせる、家族の方にも安心してもらえる施設となるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ユニットの共用空間に設置されたカウンターから立山連峰が一望でき、静かな環境の中で心ゆくまで景色を眺めることができる。床や壁は落ち着いた色調で統一され、大きな窓から光が差し込み室内は明るく、掃除が行き届いて清潔感がある。法人の方針でもあるが、事業所は職員が働きやすい体制に重点を置き、教育委員会を中心に、新任職員や外国人、さらに未経験の職員に対しても手厚い研修制度を設け、期間を区切り面談したり、時短勤務や育休を導入したりと個々の職員に合った働き方を提案し実践している。また、上司との面談の機会もあり、意見が言い易い雰囲気から職員のモチベーションが高く、「せせらぎブランド」を目指してチームでステップアップしようとする姿勢が伺える。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を職員室に掲示し意識付けを行い、その理念の下で実践していくことを目指して業務に励んでいる。	法人全体の基本理念を常に職員の目につくように事務所や廊下に貼り、意識付けている。また、行動方針の共有化を図り日頃のケアの実践に活かしている。現在、事業所独自の理念を前向きに検討中である。	事業所独自の理念を掲げ、職員全員で共有する方法や、さらに、理念のもつ意味を認識して日々の実践に繋げていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況で交流を行えてはいないが、今後はそのような状況下でも交流できる方法を検討したい。	町内会に入会し、草刈りなどの案内時には参加をしている。新型コロナウイルスの感染症予防のため、町内行事は殆ど実行されていないが、花見の時期には、近所の方が開花した桜の枝を事業所に持って来るなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設や法人内での認知症理解のための研修を行っているが、地域とのつながりがいないため、今後地域貢献として地域の高齢者に向けて施設として役に立てる事を考えていく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回定期的で開催しており、サービス提供などの活動報告を行い入居者、家族、地域住民より要望や助言を伺ってサービス向上につなげている。	民生委員、市社会福祉協議会職員、地域包括支援センター、家族代表、併設する特別養護老人ホームの家族代表も参加し、対面で開催している。「意見聴取シート」を活用して意見や質問を図り、それらをまとめた「報告書」を参加者に郵送している。災害時の避難場所についての意見を参考に、マニュアルに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろからの密な連絡はしておらず、今後協力関係を築いていけるような取り組みが必要である。	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議への参加時に意見や助言をもらう等、日頃から連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては研修を行い職員間で意識した取り組みが行えている。安全上の理由により一部施錠を行っているが、可能な限り施錠しない取り組みを行っていく必要がある。	身体拘束廃止の指針や身体拘束廃止マニュアルが整備され、身体拘束防止委員会による年2回の研修会を実施する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、職員一人ひとりに毎月、「セルフチェックシート」の記入を促し、身体拘束に繋がらないような体制作りが法人全体として出来上がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、研修の実施、自己チェックシートによる評価を毎月実施しており、ユニットミーティング内でもケアの方向性について確認し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員の学びの機会がないので、今後研修などで理解を深めていく必要がある。現状としては必要と考えられる際には、介護支援専門員から家族に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を取って説明し、理解・納得を得られるようにしている。また家族からの相談を受ける体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理に関しては委員会を設置している。利用者の普段の会話から出てくる要望については職員間での情報共有をし、家族からの意見や要望についても面会時や電話時に聞き取ったことを共有し、改善に向けて取り組んでいる。	家族からの要望や意見があった場合は、連絡ノートやユニットのホワイトボードに記入、職員全員で共有して迅速に対応している。また、苦情があった場合は「苦情受付書」に記入し、家族に説明・話し合いをして対応するように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、提案は随時聞いている。全職員に年2回の個別面談を行い、普段は言いにくいことも聞き取れるようにしている。働きやすい職場環境を目指して取り組んでいる。	日頃から意見が言い易い雰囲気を作っている。また、年2回、副施設長との面談の機会を設けており、その場で職員の思いを聞き取っている。休憩場所がないとの意見から畳を設置したり、各自の働き方についての相談を受けたりする等、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価表をもとに管理者との面談を実施している。日頃からのコミュニケーションを図るようにしている。労働時間に関しては必要以外は残業しないように勤務の調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育研修委員会が中心となって、新人教育や施設内の研修に取り組んでいる。施設内研修は毎月行っており、参加できない職員に対しては動画を使用する等の対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での研修にとどまっており、他の事業者との交流は行っていない。同業者とのネットワーク作りに向けた取り組みが今後必要と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションを積極的に行って、安心して過ごしてもらえるように努めている。職員全体で意識して取り組むことが出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と面談を行い、不安なくサービス利用していただける様に説明している。要望についても聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族と話し合い、情報を収集して本人、家族のニーズを確認している。必要と考えられる事柄を職員間で情報共有して、対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯たたみをするなど、共同生活の中での出来る事を手伝っていただくことで、良好な関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限になることもあるが、電話などお互いが安心できるように配慮している。またホームページ等で普段の様子を伝えるように努めており、家族からの相談も事務所やケアマネを通して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会や外出に制限があり、関係継続の支援は出来ていない。家族以外の人や行きつけの場所などの交流ができていないので、必要な情報の収集とコロナ禍でもできることを考えていく必要がある。	コロナ禍以前であれば、馴染みのお店への外出もできていたが、現在は殆どできていない。利用者の中には、家族と絵手紙のやり取りや、携帯電話での会話を通して交流している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格や関係性を配慮し、座席の配置を検討したり、体操やレクリエーションで顔を合わせる時間を設けたりしている。難聴などコミュニケーションが難しい方には、職員が間に入って交流できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに退居された方はいないが、介護支援専門員を中心にフォローや相談を継続していく必要がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の意向をうかがいそれに沿うように支援を行っている。入居後も随時対話の中から要望を把握しケアにつなげている。毎月ユニット会議を行い全体共有している。	日頃から本人の思いを聞く姿勢ができており、思いを聞きとった際には、支援経過記録に記入している。さらに意向に沿えるように、家族に連絡して準備できるものはしてもらい対応している。	本人に寄り添い、本人の思いを聞き取った支援経過記録の情報を介護計画に取り入れ、実践に移していくことに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から情報収集して、支援につながるようにしている。入居後に本人から得たより細かな情報などを、さらに支援につなげていけるようにする必要がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の一人ひとりの状態については、記録し情報共有に努めている。出来ない事や問題行動に目が行きがちなため、本人の出来た事、分かった事を発見し、伸ばせるような視点をもって支援する必要がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議を実施、入居者の支援について都度見直しや試行を行い、プランに反映している。	介護計画は、初回は3か月、その後は6か月ごとに、ユニット会議の中で計画の実施状況や見直しに関して全職員で話し合い、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として残している。状態の変化、気づきについても、連絡ノートやホワイトボードなどを利用し伝達している。対策の実施まで時間がかかることがあり、早急な対応を実施できるようにすることが今後の課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のサービスの枠内では可能な限り取り組んでいる。事業所としての機能を広めていくことまでは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について情報収集に努めているが、コロナ禍の為、地域の人の協力を得るような取り組みは実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の病院を中心に、本人、家族の要望の医療機関を受診できるようにしている。提携先病院の医師により月2回回診を行っている。	利用者の8割が事業所の協力医の訪問診療を受けている。回診時に看護師が利用者個々の結果を記入している。かかりつけ医に受診する場合は原則家族に同行してもらい、本人の状態を記入した用紙を渡し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師がいるため連携がしっかりとれており、夜間はオンコールを行っている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を提供し、家族や医療機関と話し合いをすすめており、退院時にはすぐに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状としては見取りを行っていないため当施設でできることの事前説明を行って了承を得ている。	入居時に現時点では「看取り介護」は実施していないことを口頭にて伝え了解してもらっている。ただし、今後は職員間、医療機関との協力体制について前向きに検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、急変時のマニュアルを整備しており、入職時に研修を行うことで理解を図り対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害についてマニュアルを整備し訓練を行っている。地域との協力体制はどういったことが出来るのか、今後の課題として検討が必要である。	「火災」「水害」「地震」時の災害避難マニュアルが整備されている。火災における避難訓練は年2回実施され、水害時の訓練として建物の2階への垂直移動の訓練も行っている。消防署が近くにあるという利点はあるが、地域の協力体制が得られるかは今後の課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時は、特に配慮した支援を行っている。また、毎月の自己評価チェックシートで、適切な対応が出来ているかを確認し、気づきを促している。	「言葉遣いの適正に関する評価基準」を基に研修を企画・実施している。適切な言葉、注意を要する言葉、禁句など事例を挙げて示し、利用者個々のプライバシーを損ねない言葉かけを意識できるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の場面で、入居者が自己決定できる支援を行っている。また、思いや希望を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事提供の時間などは個々に合わせて対応している。入浴については限られた時間内での対応となっている。一日の大まかなスケジュールは決まっているが、入居者はそれぞれの希望に沿った過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入床時の整容介助。更衣時の衣類の選択。月1回の理美容院利用。入浴後の髭や爪のケアなどを行っている。洋服は希望も踏まえて支援するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染対策により食事の準備、配膳は職員が行っている。おしぼりの準備や下膳など、簡単な手伝いはしていただいている。毎月1回の行事食や特別なおやつの日を設けている。	毎月1回、お弁当、お寿司、天ぷら等の行事食が提供される他に、各ユニットで手作りおやつやあんみつ、生菓子など食を楽しむ機会がある。また、誕生会には利用者の希望にてノンアルコールビールを嗜むこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎の摂取量、水分量は記録として残しており、食事形態も利用者に合わせている。また栄養士に相談を行い指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声掛けを行い、難しい方には職員が手伝う等の支援を行っている。義歯については、支援が必要な方の洗浄や管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切な支援ができるように職員間で話し合い、チェックシートを活用して支援を行っている。	排泄のチェックシートを記入することで利用者個々の排泄パターンを把握したり、声をかけたりする等、トイレでの排泄が自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況について、チェックシートにて毎日確認している。医療・看護とも連携して下剤の調整、水分量や活動量を考慮し、対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決められているが、入居者本人のその日の気持ちに沿うようにしている。当日に入浴できない場合は清拭のみにしたり、別の日に設定して勧めたりしている。	利用者の身体機能が重度化した場合でも、特殊浴槽にて入浴ができるよう個々に適した入浴支援が行われている。入浴を拒否される利用者には、無理強いをせず寄り添い、翌日に回したりする等の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間ともに安心して体を休めていただけるように支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をすぐに確認できるようファイリングしている。服薬変更時には、記録やボードに記入し職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを楽しみ、職員の仕事を率先して手伝ってくれる。自室の清掃は無理のない範囲で職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で受診以外の外出はほとんどできていない。天気や入居者の体調を考慮して、施設周辺の散歩の支援を行っている。	新型コロナウイルス感染症の予防に徹し外出は困難であるが、日頃から天候の良い日を選んで事業所の周りを散歩し、利用者が少しでも気分転換できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会がなく、金銭の持ち込みは基本的に遠慮してもらっている。持っていないと不安な方は所持することを認めているので、時々施設内の自販機で飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持を許可しており、訴えがあるときは電話することの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の清掃や消毒は毎日実施して、常に清潔を心がけている。季節に合った飾りや年間行事の作品展示をしている。	リビングは明るくゆったりとしていて、テーブル上にはパーテーションパネルが設置され感染症対策が施されている。トイレや浴室は清掃が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはくつろげるようソファを設置し、自由に過ごせるようにしている。座席の配慮、会話し易いレイアウトを意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族とも相談し、使い慣れたものや使用していたものを持ち込める様に選定している。	自宅で使用していたテーブルや椅子、家族写真、趣味の大正琴や仏壇を持ち込んだりしている。また、壁には上着をかけられるようにフックがついており、本人が使いやすく、また、過ごしやすいように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあり安全に配慮している。またホールやユニット間も広くスペースをとって、安全に歩行できるようにしている。トイレの場所が分かり易いように、標識を付けている。		

## 2 目標達成計画

事業所名 せせらぎの郷共同生活介護

作成日： 令和 5 年 1 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人としての基本理念及び方針があり、廊下や職員室に掲示することで意識付けを行っており、その理念の下で実践していく事を目指し業務に励んでいるが、グループホームの意義を踏まえた独自の理念や方針ではない。	法人の理念は踏襲しつつ、地域密着サービスの意義を踏まえたグループホームとしての行動方針を掲げ、職員全体で共有化を図り、日々の実践につなげていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人理念の再確認とグループホームとしての行動方針の創設。</li> <li>グループホームの行動方針の職員の提示と説明。</li> <li>職員全体での目指すべき方向性の確認。</li> <li>実践の中で取り組めることを具体的に定める。</li> </ul>	3ヶ月
2	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向については職員は日頃より把握に努めているが、それを中心としてとらえた介護計画とはなっていない。日常の支援においてもっと本人の思いを意識した働きかけが必要である。	本人の思いを聞き取る事をもっと意識して、経過記録に残していく。また、その情報を職員全体で共有し、介護計画に取り入れ、実践に移していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の主訴(訴え、思い)となる部分を経過記録の中で区別できるようにする。(目印をつける。)</li> <li>思いを抽出できるような、働きかけの時間を支援の中に組み入れる。</li> <li>本人、家族、職員がその思いを共有できるよう、介護支援専門員が中心となって各々に働きかける。</li> </ul>	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。